

行政調査報告書「産業建設常任委員会」

令和元年7月10日～12日

■兵庫県南あわじ市『道の駅うずしおの運営について』



一時は赤字に陥ったがこの10年間で年商8億円から14億円に再生。ポイントとして現地でしかできない体験、印象的で分かりやすいポップによる商品展示をしている。情報発信も専属2名の社員でHPを更新。「馬鹿げたことを真剣にやる」という社長の話から、失敗と工夫を繰り返し成長していると分かった。常にお客のニーズを求め、日々新しい取り組みをする点は参考になりたい。

■高松丸亀町商店街振興組合（香川県高松市）

『高松丸亀町商店街におけるまちづくり戦略について』

バブルの影響で地価が高騰し、郊外へ人が流れ、大型店舗出店により危機的状況にあったが、前例のなかった民間主導による再開発を実施。商店だけに限らず、マンションや病院、介護施設、ホームセンターなどのライフインフラを再整備。定住人口の回復、高齢者や障がい者が車に依存することなく安心安全に歩いて暮らせるまちをつくっている。



客を取り返すのではなく居住者を取り戻すという考えを参考にしたい

■NPO 法人スローソサエティ協会（兵庫県姫路市）

『姫路駅北駅前広場の整備と運営について』



交通機能を優先し駅から商店街への動線を塞いでしまう整備計画に対し、商店街連合会等から複数の代替案が提示され、市民参加のプロセスを積極的に取り入れた官民協働での取り組みが始まる。行政には任せておけない、自分で自分のまちをつくる、という情熱を持った人たちの連携が、新しい駅前整備へ繋がったと強く感じる。